

事業区分	文化芸術事業	育成・創造事業
事業名	ととりの芸術宅配便	
目的・内容	<p>県内の小中学校、特別支援学校等に県内のアーティストを講師として派遣し、鑑賞型、体験型の公演やワークショップ等を実施し、子どもや青少年の文化芸術体験の充実を図る。また、創造的な未来と次世代の育成のため、教育と交流の視点から基盤整備を図る。本事業を通じて、将来の芸術文化の担い手や鑑賞者を育成し、文化人口を拡大する。</p> <p>【使命】「文化芸術活動の発信と交流」「文化人口の拡大とレベルアップ」「多彩な人材育成とキャリア開発」「子どもの文化芸術活動の推進」を使命として、子どもたちに文化芸術活動を鑑賞・体験する機会を提供する。</p> <p>【事業計画の柱】「子どもや青少年のための文化芸術活動の充実」「文化活動者との協働による自主制作事業の推進」「鳥取県内外の人財を活用した事業の推進」の達成するために実施する。</p>	
開催時期	平成24年6月～平成25年2月(59回/小学校36校、中学校5校、特別支援学校6校、公民館4か所)	
会場	県内小中学校、特別支援学校、公民館	
参加費	無料	
実施状況	総体験者数 8,503名 講師オーディション 8/11 受講者:8名 合格者:4名(朗読、韓国民族音楽、ダンス、ヴァイオリン)	実施ジャンル 吹奏楽10回、声楽8回、和太鼓6回、アフリカ民族音楽6回、ゴスペル6回、邦楽5回、弦楽器4回、ヒップホップダンス4回、オーケストラ3回、管楽器2回、演劇・人形劇5回
	講師意見交換会	参加講師:17名 財団:3名
事業費状況	予算額 収入 0円 支出 5,083,000円 収支比率 ー	
	決算額 収入 0円 支出 4,161,456円 収支比率 ー	
参加者アンケート(主なもの)	<p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初めてオペラを聞いてすごいと思いました。声ののびがとてもきれいで、歌詞はわからないが、歌い方や演奏でも伝わってくる表現力というのすごいと思いました。(声楽)</li> <li>すごく楽しんでいることが伝わってきて、私は笑顔になれました。歌を聞き、生きていることの素晴らしさを感じました。(ゴスペル)</li> <li>アフリカ楽器のきれいな音に驚きました。楽器をたたいてみると、振動が手に伝わってきてすごかったです。(アフリカ民族音楽)</li> <li>箏や尺八の演奏を聴いていると風が吹くような風景や桜がまいちるような風景が頭の中にありました。(邦楽)</li> </ul> <p>[先生]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見ているだけではなく、実際にたたいてみると「心を一つにして」、「みんなでそろえる」といった気持を大切にしていることがわかりました。(和太鼓)</li> <li>最初は難しそうと・・・思っていた子どもたちでしたが、からだを動かして心を開放し、自分を表現する楽しさ、喜びを感じたように思います。</li> <li>吹奏楽を鑑賞したり楽器に触れたりすることで、音楽の学習の理解が深まりました。(吹奏楽)</li> <li>今回の劇の原作を読みたいという児童が図書館に向かい、読書に対する関心が高まりました。(演劇・人形劇)</li> </ul>	
1次評価(内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日ごろの学習の補完となるような体験活動を取り入れ、生きた教材として学校教育の中に位置づけることができた。</li> <li>本事業をひとつのきっかけとして、学年単位などで学習発表会や連合音楽会などで演奏発表が出来るようになった。</li> <li>実施内容を各学校の実情に合わせて行い、プログラム作成における各ジャンルの可能性を発見できた。</li> <li>実施後に配布する子ども用テキストを作成し、今年度より配布を開始し、実施後の子どもたちの事後学習に役立った。</li> <li>今年度派遣講師オーディションを開催し、新たに4名の講師が登録され、来年度ジャンルも3ジャンル増える。</li> </ul> <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1校につき1年に1回の実施ということで、全校生徒数が多い学校では、学年を限定しての申込みとなった。1年に数回実施したいという学校も多い。</li> <li>西部地区の実施が東部地区、中部地区に比べて少なく、開発の余地がある。</li> <li>吹奏楽ジャンル10回、ピアノジャンルが0件と、実施ジャンルにばらつきが生じた。</li> </ul>	
2次評価(財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生の芸術に直接ことで、子どもたちが素直に感じた喜びや感動が、文化をはぐむ力になってきている。</li> <li>学校の事業に対する認識は、着実に定着しつつある。</li> </ul> <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新講師を迎え新体制で取り組む上で、講師の研修や意見交換の機会を持つこと。</li> <li>ミッションの再検討と西部地域拡大のための地域や学校へのニーズ調査も必要。</li> </ul>	
今後の対応、取組状況	<p>(プログラムの開発)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領・教科書と関連した実施案を提示するなど、教育と連動したプログラムの開発を引き続き進めていく。</li> <li>募集案内に実施の例、各ジャンルの最適対象人数などを明記し、学校教員が申し込み時にイメージしやすくする。</li> <li>特別支援学校において、体験時間を考慮したプログラムの要望があり、学校の実情に合わせたプログラム作成を行う。</li> </ul> <p>(実施の斡旋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>西部地区の実施の際、実施校だけでなく他校においても本事業をアプローチする機会を設ける。</li> </ul> <p>(人員の連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担当者のコーディネート力、講師のスキルアップ、教員への啓発など、意見交換や研修の場を充実する。</li> <li>講師と財団の意見交換会による連携強化、他講師実施の見学による研修の場づくりを図る。</li> </ul>	